

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 08097959 A

(43) Date of publication of application: 12.04.96

(51) Int. Cl

H04N 1/00
G03G 21/00
G03G 21/20
H04N 1/32

(21) Application number: 06227137

(22) Date of filing: 22.09.94

(71) Applicant: RICOH CO LTD

(72) Inventor: FUKUI TOMONORI
KOIKE MORIYUKI
DOI ATSUSHI

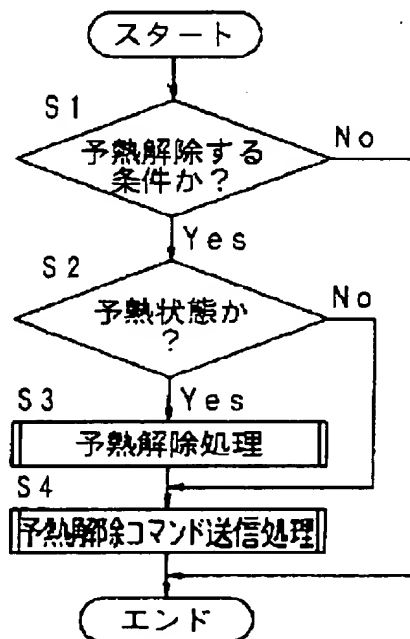
(54) NETWORK SYSTEM FOR DIGITAL COPYING MACHINE

(57) Abstract:

PURPOSE: To improve the operability of the entire system and to reduce the time till copy is started by releasing a preheat mode of other digital copying machine in response to release of the preheat mode of a digital copying machine when the preheat mode function is provided.

CONSTITUTION: Whether or not the condition of releasing the preheat mode is reached is discriminated (S1). Whether or not a concerned digital copying machine reaches the preheat state is discriminated (S2), and when the concerned machine reaches the preheat state, the preheat mode of the concerned machine is released (S3). Then a command requesting preheat processing is sent to other digital copying machine in the network (S4). When at least two digital copying machines in the network system have the preheat mode function decreasing the power consumption more than that of the standby state, the preheat mode of the other digital copying machine connecting to the own digital copying machine is released in response to the release of the preheat mode of the own digital copying machine by the preheat mode release means.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-97959

(43) 公開日 平成8年(1996)4月12日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 1/00	1 0 7 Z			
G 0 3 G 21/00	3 9 6			
21/20				
H 0 4 N 1/32		C		
			G 0 3 G 21/ 00	5 3 4
			審査請求 未請求 請求項の数3	O L (全 21 頁)

(21) 出願番号 特願平6-227137

(22) 出願日 平成6年(1994)9月22日

(71) 出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72) 発明者 福井 智則

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

(72) 発明者 小池 守幸

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

(72) 発明者 土居 淳

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

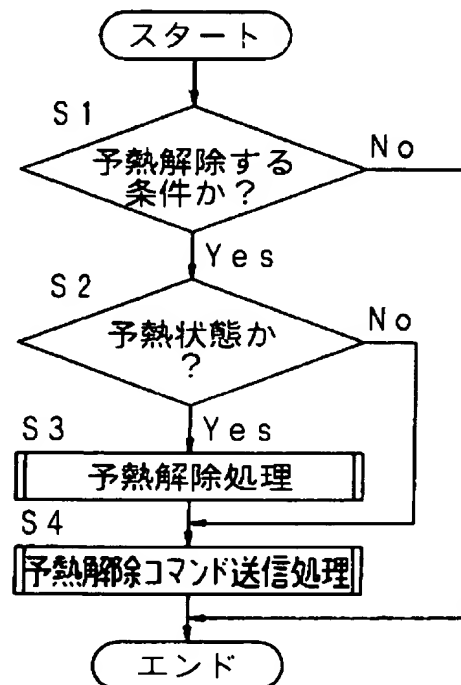
(74) 代理人 弁理士 有我 軍一郎

(54) 【発明の名称】 デジタル複写機のネットワークシステム

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、他のデジタル複写機の予熱状態を自機のデジタル複写機側で解除することができ、システム全体の操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができる。

【構成】 少なくとも2台以上のデジタル複写機に動作コマンド及び画像情報を通信する通信手段を設けて構成されたデジタル複写機のネットワークシステムにおいて、前記ネットワークシステム内の少なくとも2台以上のデジタル複写機に、消費電力をスタンバイ時よりも下げる予熱モード機能を有する時、1台のデジタル複写機の予熱モードの解除に応じて、他のデジタル複写機の予熱モードを解除する予熱モード解除手段を有する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】少なくとも 2 台以上のデジタル複写機に動作コマンド及び画像情報を通信する通信手段を設けて構成されたデジタル複写機のネットワークシステムにおいて、前記ネットワークシステム内の少なくとも 2 台以上のデジタル複写機に、消費電力をスタンバイ時よりも下げる予熱モード機能を有する時、1 台のデジタル複写機の予熱モードの解除に応じて、他のデジタル複写機の予熱モードを解除する予熱モード解除手段を有することを特徴とするデジタル複写機のネットワークシステム。

【請求項 2】前記他のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて予熱モードを解除した時、予熱モード解除に対応する操作部表示を行わないように操作部を制御する操作部制御手段を有することを特徴とする請求項 1 記載のデジタル複写機のネットワークシステム。

【請求項 3】前記ネットワークシステム内の自機及び他のデジタル複写機が使用状態にないことが一定時間続いた時、予熱モードへ自動的に移行する自動予熱モード移行手段を有することを特徴とする請求項 1、2 記載のデジタル複写機のネットワークシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、デジタル複写機のネットワークシステムに係り、詳しくは、デジタル複写機のネットワーク技術に適用することができ、特に、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、他のデジタル複写機の予熱状態を自機のデジタル複写機側で解除することができ、システム全体の操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができるデジタル複写機のネットワークシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の画像形成システムには、イメージスキャナやワードプロセッサ、及びパーソナルコンピュータ等の画像信号を出力する複数の画像信号出力手段と、それらの各画像信号出力手段から出力される各画像信号に基づいて、各々画像イメージを形成して記録紙に記録する複数のプリンタ等の画像形成手段とを組み合わせたシステムが提案されている。

【0003】従来、複数の画像信号出力装置と複数の画像形成装置とを画像情報の記録、記憶及び通信等の各機能で有機的に結合し、任意の場所から他の場所へ自由にアクセスを行うことができる画像処理システムについては、特公平 2-21190 号公報で報告されたものがある。この従来の画像処理システムは、外部機器から受信された画像データを少なくとも 1 画面分記憶する記憶手段を備え、受信されて記憶手段に記憶されている画像データを、記録材上におけるビームの各走査に同期して記録手段から発生されるライン同期信号に基づいて、バス

2

ラインを介してライン毎に記録手段へ DMA (Direct Memory Access) 転送させるように構成することにより、記録手段の記録動作速度とは関係なく受信される画像データを、記録手段の記録動作に合わせて、記録手段に供給することができるとともに、ビームによって記録材上を繰り返し走査することで、外部機器から受信した画像データに基づく画像記録を高速に実行することができるという利点を有する。

【0004】従来、デジタル複写機を繋ぎ、複写動作スピードを高めることができるデジタル複写装置については、例えば特開平 5-304575 号公報で報告されたものがある。この従来のデジタル複写装置は、他のデジタル複写装置が接続されている伝送ケーブルに複写制御信号及びデジタル画像信号を出力して、他のデジタル複写装置に同じ複写動作を実行させる手段と、他のデジタル複写装置が接続されている伝送ケーブルから、他のデジタル複写装置の複写制御信号及びデジタル画像信号を入力して、他のデジタル複写装置と同じ複写動作を実行させる手段との一方または双方を備えて構成することにより、簡単なハードウェアの追加によって、1 つの原稿を複数のデジタル複写装置で複写させて、大量複写と複写作業時間の短縮を行うことができるという利点を有する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記したような従来のデジタル複写機のネットワークシステムでは、画像データの共有を目的としたものであり、各々のデジタル複写機が有する予熱機能等の補助機能を連動させるように構成していなかったため、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを行う時、態態他のデジタル複写機の所まで行って他のデジタル複写機の予熱状態を解除しなければならない。このため、手間がかかりシステム全体の操作性が低下してしまう他、コピー開始までの時間に長時間を要してしまうという問題があった。

【0006】そこで、本発明は、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、他のデジタル複写機の予熱状態を自機のデジタル複写機側で解除することができ、システム全体の操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができるデジタル複写機のネットワークシステムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項 1 記載の発明は、少なくとも 2 台以上のデジタル複写機に動作コマンド及び画像情報を通信する通信手段を設けて構成されたデジタル複写機のネットワークシステムにおいて、前記ネットワークシステム内の少なくとも 2 台以上のデジタル複写機に、消費電力をスタンバイ時よりも下げる予熱モー

3

ド機能を有する時、1台のデジタル複写機の予熱モードの解除に応じて、他のデジタル複写機の予熱モードを解除する予熱モード解除手段を有することを特徴とするものである。

【0008】請求項2記載の発明は、上記請求項1記載の発明において、前記他のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて予熱モードを解除した時、予熱モード解除に対応する操作部表示を行わないように操作部を制御する操作部制御手段を有することを特徴とするものである。請求項3記載の発明は、上記請求項1、2記載の発明において、前記ネットワークシステム内の自機及び他のデジタル複写機が使用状態にないことが一定時間続いた時、予熱モードへ自動的に移行する自動予熱モード移行手段を有することを特徴とするものである。

【0009】

【作用】請求項1記載の発明では、ネットワークシステム内の少なくとも2台以上のデジタル複写機に、消費電力をスタンバイ時よりも下げる予熱モード機能を有する時、予熱モード解除手段により1台のデジタル複写機の予熱モードの解除に応じて、このデジタル複写機に繋がれた他のデジタル複写機の予熱モードを解除するように構成する。

【0010】このため、ネットワークを介して1台のデジタル複写機に繋がれた他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、1台のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて他のデジタル複写機の予熱モードを解除することができる。従って、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時でも、他のデジタル複写機の所まで態態行って予熱状態を解除しないで自機のデジタル複写機側で自動的に解除することができるため、システム全体での操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができる。

【0011】請求項2記載の発明では、ネットワークを介して1台のデジタル複写機に繋がれたその他のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて予熱モードを解除した時、操作部制御手段により予熱モード解除に対応する操作部表示を行わないように操作部を制御するように構成する。このため、他のデジタル複写機への連動による予熱解除時に、予熱解除に対応する操作部表示を行わないように操作部を制御することができる。従って、オペレータが操作していないデジタル複写機は操作部表示（必要のない表示）を行わないで済ませることができるため、その分無駄な電力消費を抑えることができる。

【0012】請求項3記載の発明では、ネットワークシステム内の自機及び他のデジタル複写機が使用状態にないことが一定時間続いた時、自動予熱モード移行手段により予熱モードへ自動的に移行するように構成する。このため、他のデジタル複写機が使用中の場合には、自動予熱モード移行機能を働かせないようにすることができ

4

るので、使用中のデジタル複写機が使おうとした他のデジタル複写機が予熱モードになってしまうことを防止することができる。従って、システム全体での機能及び操作性を効率良く向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を効率良く短縮することができる。

【0013】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面を参照して説明する。以下に、本実施例で共通に使用される用語の説明、定義を行う。まず、画像読み取り装置及び画像読み取り部について説明する。デジタル複写機で用いられる画像読み取り装置は、光源を原稿に照射し、原稿で反射した反射光を受光して固体作像素子（CCD）で電気信号に変換し、必要な画像処理を行う機能を有する装置が用いられている。

【0014】ここで、必要な画像処理には、量子化、シェーディング補正、MTF補正及び変倍処理等の処理が挙げられる。量子化は、CCDで電気信号に変換されたアナログデータを2値あるいは多値データに変換する処理であり、シェーディング補正は、原稿を照射する光源の照射斑や、CCDの感度ばらつきを補正する処理である。MTF補正は、光学系によるボケを補正する処理であり、変倍処理は、画像の読み取り密度を変化させ、読み取った画像データを用いてデータ補間する処理である。

【0015】次に、画像形成装置及び画像書き込み部について説明する。デジタル複写機で用いられる画像形成装置又は画像書き込み部は、電気信号で送られた画像イメージを電子写真、感熱、熱転写、インクジェット等の手段により普通紙、感熱紙等に形成する装置である。次に、ビデオ信号及び画像データについて説明する。前述した画像読み取り装置で変換された画像の電気信号、画像形成装置へ入力される画像の電気信号、及び画像の電気信号と同期を取るための信号をまとめてビデオ信号あるいは画像データと表現する。

【0016】次に、制御信号及びコマンドについて説明する。ビデオ信号を画像読み取り装置、画像形成装置、アプリケーション間で遣り取りするためには、装置間で情報を伝達し合う必要がある。この手段を制御信号またはコマンド発行と表現する。次に、拡張機能、アプリケーション（以下、アプリと記す）、メモリ機能及びメモリユニットについて説明する。デジタル複写機の大きな特徴に、画像を電気信号に変換して読み込み、電気信号を画像形成装置で復元する。この時、読み取った電気信号を様々に変化、伝達する手段を有することによって、従来のアナログ複写機以外の分野に応用することができる。

【0017】FAX、ページプリンター、スキャナ及びファイルシステム等の機能を実現することができる他、最近では、複写機能の実行時においても、読み取った画像データを一旦、DRAM等の記憶装置に記憶させ、必

要に応じて画像データを読み出すことによって、複数の複写時には、1 スキャンで複数プリントを実行したり、あるいは複数の原稿を1 枚の転写紙にプリントする機能（以下、メモリ機能と記す）等も実現されている。これらのデジタル複写機システムならではの機能を実現できる機能を、拡張機能あるいはアプリと表現する。なお、本発明においては、メモリユニットはネットワーク上にある機械間の画像データ転送時の緩衝手段としても利用している。

【0018】次に、システムコントローラ及びシステムについて説明する。複写モードを実行するうえで、画像書き込み部で画像形成するために、紙搬送処理、電子写真プロセス処理、異常状態や給紙カセット状態（紙の有無等）等の機内監視、及び画像読み取り部で画像を読み取るために、スキャナ動作や光源のON/OFF等を制御するコントローラを総称してシステムコントローラと表現する。

【0019】更に、最近のデジタル複写機では、拡張機能を1 つ搭載するのみではなく、複数アプリを同時搭載するようになってきている。このように、1 つの資源を共有するデジタル複写機をシステムと表現し、このシステムを制御するコントローラをシステムコントローラと表現する場合もある。次に、資源及びリソースについて説明する。複数のアプリから共有される機能ユニット単位を資源、リソースと表現する。前述したシステムコントローラは、このリソース単位でシステム制御を行っている。本実施例のデジタル複写機で管理している資源は、画像読み取り装置、画像形成装置、操作部、メモリ、周辺機（ADF、ソーター、自動両面ユニット等）等がある。

【0020】次に、利用者制限について説明する。特に、電子写真プロセスを使用している複写機は、消費量が多いため、無制限に使用を許可したくない場合がある。この時、利用者を特定、限定、管理するために、コインラック、キーカウンター、キーカード、プリペイドカード等の利用者制限機器や暗証コード等を使用する。次に、ユーザ設定について説明する。システムが複雑になると、ユーザ毎の個別対応が必要となる。工場出荷時にこれらの対応を全て満足することは、実用上困難であるため、市場での対応が不可欠となる。従って、通常は、不揮発RAMを装備し、ユーザーの要求に応じたシステム設定を行っているが、この機能をユーザ設定と表現する。

【0021】次に、アイドル状態について説明する。ユーザーによる操作が行われていない状態が一定期間継続した状態をアイドル状態、それ以外の状態をビジー状態と表現する。ビジー状態からアイドル状態に遷移するまでの時間は、ユーザー設定を行うことができる。例えば、複写動作中はもちろん、複写動作が終了しても一定期間、ユーザーによる無操作状態が継続しないと、アイ

ドル状態には遷移しない。

【0022】次に、人体検知センサについて説明する。図1は人体検知センサの構成を示す図である。人体検知センサ1は、赤外線発光ダイオードと赤外線の出射を一定方向に制限する光学系、及び発射された赤外線の反射光を検知する赤外線受光センサからなり、センサから一定距離内にある物体（オペレータ）を検知して、本体制御板2に信号を送るように構成されている。

【0023】また、人体検知センサ1内部には、検出距離切り換えスイッチがあり、検出距離を2段階に切り換えることができる。人体検知センサ1を画像形成装置の前面に配置することにより、装置の前にオペレータがいるかどうかを確認することができる。次に、ウィークリータイマーについて説明する。ウィークリータイマーは、各曜日毎に設定されたON/OFF時間に合わせ、電源をON/OFFする機能を意味する。この機能を行うためには、時計モジュールを時刻合わせするための操作と各曜日毎にON/OFF時間を設定する操作が必要である。その操作を以下、具体的に図面を用いて説明する。

【0024】図2は電源系統の構成を示すブロック図である。電源ユニット3において、商用電源から生成したCPUや各種センサ等の軽負荷用定電圧 V_L 及びモータやクラッチ、ヒータ等の重負荷用定電圧 V_H が各部に供給される。但し、図示しない時計IC及びRAMには、商用電源が遮断した時のバックアップ用電源が接続されている。リレードライバ4は、本体制御板2からの指示に応じて電源ユニット3の軽負荷用定電圧 V_L の供給ラインに介挿されたソリッドステートリレー（SSR）5a及び、重負荷用定電圧電源 V_H の供給ラインに介挿されたソリッドステートリレー5bを、各々独立に付勢/消勢する。本体側は、同機能を利用して重負荷用定電圧電源 V_H 側のみを消勢することにより、ウィークリータイマー等での自動電源ON/OFF機能を実現する。

【0025】次に、予熱について説明する。予熱は、定着温度を一定温度、例えば10℃下げて制御し、操作部表示を消すことにより、消費電力を節約するモードである。このモードの設定は、操作部でのキー入力や、機械設定によっては、動作及び操作がなくなってから、一定時間後に自動的に設定される。

【0026】このモードの解除は、操作部でのキー入力や、機械設定によって人体検知センサにより機械の前に人が立ったことを検出した時に解除される。また、本発明では、予熱モードの設定や解除の条件にネットワークシステム内の他の複写機の使用状況も加味する。次に、リロードについて説明する。定着温度が定着可能温度に到達し、コピーできる状態をリロードという。

【0027】次に、割り込みモードについて説明する。割り込みモードは、コピー動作実行中及び操作中において、一時的にコピー作業を割り込んでコピーをする時の

モードである。このモードを設定することにより、その前のコピーモード及びコピー途中であれば、その途中経過情報を不揮発RAMに記憶し、割り込みモードに移行し、モードを初期化する。

【0028】コピー動作を実行した後、割り込みモードを解除すると、不揮発RAMに記憶したモード及び情報を戻して、割り込みモード設定前の状態を復帰させ、再スタートにて、割り込み前のモードを継続することができる。このモードの設定／解除は、操作部のキーにて行うことができる。次に、CSS（遠隔診断システムあるいは画像形成装置管理システム）について説明する。

【0029】図3は画像形成装置管理システムの構成を示すブロック図である。サービス拠点に設置されている管理装置6とユーザ元に設置されているデジタル複写機7等の機器とを、公衆回線網8を介して接続している。ユーザ側には、管理装置6との通信を制御するための通信コントロール装置9が設置されており、ユーザ元のデジタル複写機7は、この通信コントロール装置9に接続されている。

【0030】通信コントロール装置9には、電話機10やファクシミリ11が接続できるようになっており、ユーザの既存の回線に挿入する形で設置ができるようになっている。通信コントロール装置9には、複数のデジタル複写機7が接続できるようになっているが、もちろん単数の場合もある。これらのデジタル複写機7は、同型のものである必要はなく、異なる機種でも構わず、デジタル複写機7以外の機器でも構わない。

【0031】ここでは、説明の便宜上、1台の通信コントロール装置9には、最大5台のデジタル複写機7が接続できるものとする。通信コントロール装置9と複数のデジタル複写機7は、RS-485規格によりマルチドロップ接続されている。通信コントロール装置9と各デジタル複写機7間の通信制御は、基本型データ伝送制御手順により行われる。

【0032】通信コントロール装置9を制御局としたセントラライズド制御のポーリング／セレクトイング方式でデータリンクの確立を行うことにより、任意のデジタル複写機7との通信を行うことができるようになっている。各デジタル複写機7は、アドレス設定スイッチによって固有の値を設定できるようになっており、これによって、各デジタル複写機7のポーリングアドレス、セレクトイングアドレスが決定される。

【0033】以下、本発明の実施例の構成及び動作を図面を用いて説明する。図4は本発明に係る一実施例のデジタル複写機のシステム構成を示す図である。図4に示すように、デジタル複写機55は、原稿仕送り装置（ADF；Auto Document Feeder）56、操作部57、画像読み取り装置58、画像形成装置59、両面ユニット60、排紙仕分け装置61、給紙カセット62、拡張機能63、利用者制限機器64によ

て構成されている。

【0034】原稿仕送り装置56は、原稿台にセットされた複数枚のシート原稿を自動的に画像読み取り装置58に1枚づつ順次に仕送る。操作部57は、MMI（Man Machine Interface）をユーザに提供するためのLCD表示部やLED表示部やキー入力部を有する。画像読み取り装置58は、光源で発光させた光を原稿シートに照射し、その反射光を電荷結合素子（CCD）で電気信号に変換し、画像形成装置59は、電気信号で送出された画像イメージを光電効果と静電吸着現象を用いた電子写真や、パルス状の電圧を加えて発熱する感熱記録や、ノズルから噴出するインク液滴に偏向を加えるインクジェット記録等の画像形成手段によって普通紙や感熱紙等の記録紙に形成する。

【0035】両面ユニット60は、両面コピーを行う際に画像形成装置59で片面に画像形成された記録紙を一時的に待避し、この記録紙の表裏を反転して画像形成装置59に給紙し、排紙仕分け装置61は、ソート機能とスタック機能を有し、ソート機能では排紙された記録紙を排紙順に1枚毎に丁合ひし、スタック機能では排紙された記録紙をページ毎に仕分ける。給紙カセット62は、縦方向または横方向にセットされた記録紙を給紙するために、カセットトレイにセットした後は必要に応じて1枚づつ順次に仕送る。

【0036】拡張機能63は、個別ユーザの用途に応じたアプリケーションを提供するためのROMカードやROMカセットを装着することで、読み取った画像データを一旦記憶させ、必要に応じて画像データを読み出すように制御して、例えば複数の複写時には、1回のスキャンで複数枚のプリントを実行するメモリ・リテンション機能や、複数の原稿を1枚の記録紙にプリントするイン・ツー・ワン機能等のメモリ機能を実現することができる。

【0037】利用者制限機器64は、コインラックやキーカウンタ、及びキーカードやプリペイドカード等を装着して、利用者を特定することや限定することで記録紙の消費量を管理するためのもので、特に、電子写真プロセスを使用しているデジタル複写機において有効である。次に、図5は本発明に係る一実施例のデジタル複写機の構成を示すブロック図である。

【0038】図5に示すように、デジタル複写機55は、システムコントローラ66、画像読み取り部67、画像書き込み部68、メモリユニット69、CSS70、時計部71、利用者制限機器72、人体検知センサ73によって構成されている。システムコントローラ66は、利用者制限機器72に設定された利用者を特定／限定／管理するための情報や、人体検知センサ73によって検出されたオペレータの存在の有無をパラメータとして、内部CPUによるプログラム制御に基づいて各部を制御する。また、システムコントローラ66は、内部

RAMを有し、操作部57で設定された操作情報を一旦記憶する。

【0039】画像読み取り部67は、画像読み取り装置58で読み取られた原稿シートの電気信号に必要な画像処理を加えた後に、画像データを出力する。ここでの画像処理は、例えば量子化においては、CCDで電気信号に変換されたアナログデータを2値あるいは多値データに変換する。シェーディング補正においては、原稿に照射する光源の照射ムラやCCDの感度ばらつきを補正する。MTF補正においては、光学系による画像ボケを補正する。また、変倍処理においては、読み取った画像データをデータ補間して画像の読み取り密度を変更する。

【0040】画像書き込み部68は、入力された画像データを画像形成手段によって画像イメージを形成して普通紙や感熱紙等の記録紙に複写する。メモリユニット69は、圧縮ブロック76とDRAM(Dynamic Random Access Memory)ブロック75及びDMA(Direct Memory Access)ブロック78によって内部が構成されている。圧縮ブロック76は、DRAMブロック75の使用効率の向上を図るために、入力された画像データをMH方式やMR方式やMMR方式等の符号化復号化方式に基づいて圧縮するとともに、圧縮されたデータを画像データに伸長する。DRAMブロック75は、画像データをDRAMに一時記憶する。DMAブロック78は、入力された画像データをシステムコントローラ11の介在なく転送する。

【0041】CSS70は、デジタル複写機にエラーが発生した場合に自動的にサービスセンタに通報するとともに、デジタル複写機の実行状態/使用状態を遠隔地からモニタするモニタ機能を有する。時計部71は、デジタル複写機の立ち上げ時のプログラムのブートやシャットダウンを行う際のウィークリタイマ機能を実現するために、特定時間になったことをシステムコントローラ11に通知する。なお、ウィークリタイマ機能は、各曜日毎に設定されたON/OFF時間に応じて、電源をON/OFFする機能であり、時計部71の時刻を合わせるために各曜日毎にON/OFF時間を設定する操作が必要である。

【0042】利用者制限機器72は、コインラックやキーカウンタやキーカードやプリペイドカード等を装着して、利用者の特定や限定を行う暗証コードを入力して、記録紙の消費量を管理するためのもので、特に、電子写真プロセスを使用しているデジタル複写機において有効である。人体検知センサ73は、一定距離内にある人体を検知してシステムコントローラ11に検知信号を送出する。

【0043】なお、メモリユニット69は、メモリ機能を実現する場合のみ必要であり、通常のコピー機能を実現することだけを考えれば、必要とはならない。更に、

時計部71は、ある特定の時間になった時点で、機械をブートしたり、シャットダウンしたりするようなウィークリタイマ機能を実現する場合のみ必要である。また、人体検知センサ73は、予熱モード時に機械の前にユーザが近づいてきた時に自動的に予熱モードを解除する機能を実現する場合のみ必要であり、CSS70は、遠隔診断、即ち機械のエラーが発生した場合は自動的にサービスセンタに通報したり、機械の実行状態/使用状態を遠隔地からモニターしたりする機能であるため、このような機能が必要な場合のみ装着させればよい。

【0044】ここで、メモリユニット69内のDRAMブロック75は、画像読み取り部67から読み取った画像信号を記憶するためのもので、システムコントローラ66からの要求に応じて、画像書き込み部68に保存されている画像データを転送する。また、メモリユニット69内の圧縮ブロック76は、MH、MR、MMR方式等の圧縮機能を有しており、一旦読み取った画像を圧縮し、メモリ(DRAM)の使用効率の向上を図る。なお、画像読み取り部67、画像書き込み部68、メモリユニット69及びCSS70の制御は、システムコントローラ66の1CPU77のみで制御を行っている。

【0045】次に、図6は本発明に係る一実施例のデジタル複写機の構成を示すブロック図である。図6に示すように、デジタル複写機55は、システムコントローラ79、画像読み取り部80、画像書き込み部81、メモリユニット82、CSS83、時計部84、利用者制限機器85、人体検知センサ86によって構成されている。

【0046】画像読み取り部80と画像書き込み部81及びメモリユニット82に各々コントローラとして各々CPU87a、87b、87cを内蔵し、システムコントローラ79から各コントローラへのコマンドは、制御信号線で伝達するように構成している。システムハード構成は、任意に構成することができ、基本的機能は、図4に示すデジタル複写機55と同様である。

【0047】次に、図7は本発明に係る一実施例のデジタル複写機のネットワークシステムの接続を示す図である。図示例は、ネットワークコピーのシステム例を示している。ここでは、図7に示すように、8台のデジタル複写機55a~55hを各々接続してネットワーク化してデジタル複写機のネットワークシステムを構成しているが、本発明はこれのみに限定されるものではなく、ネットワークに接続されるデジタル複写機の台数は2台以上であればよい。

【0048】次に、図8は本発明に係る一実施例のデジタル複写機をネットワークを介して接続した構成を示すブロック図である。図示例は、ハード構成例を示している。図8に示すように、デジタル複写機55a、55bは、システムコントローラ66、画像読み取り部67、画像書き込み部68、メモリユニット69a、CSS7

0、時計部 71、利用者制限機器 72、人体検知センサ 73によって構成されている。

【0049】なお、デジタル複写機 55a、55bのシステムコントローラ 66、画像読み取り部 67、画像書き込み部 68、CSS 70、時計部 71、利用者制限機器 72、人体検知センサ 73は、前述した図 5 のデジタル複写機 55 の各部の機能と同様であるので、その説明を省略する。ここで、デジタル複写機 55a、55bを構成するメモリユニット 69a について説明する。

【0050】メモリユニット 69a は、DRAM ブロック 75、圧縮ブロック 76、DMA ブロック 78 及び SCSI コントローラ 90 によって構成されている。圧縮ブロック 76 は、DRAM ブロック 75 の使用効率の向上を図るために、入力された画像データを MH 方式、MR 方式及び MMR 方式等の符号化復号化方式に基づいて圧縮するとともに、圧縮されたデータを画像データに伸長する。

【0051】DRAM ブロック 75 は、画像データを DRAM に一時記憶し、DMA ブロック 78 は、入力された画像データをシステムコントローラ 66 の介在なく転送する。SCSI (Small Computer System Interface) コントローラ 90 は、デジタイズ方式に接続された周辺機器とのデータ転送を制御する。特に、本実施例においては、SCSI を複数のデジタル複写機間を接続するネットワークとして使用する。

【0052】図 8 に示すように、1 台のデジタル複写機 55a、55b のハード構成は、図 5 で示したものと略同様の構成を取っているが、メモリユニット 69a 内には読み取った画像を外部のネットワーク上に転送あるいはネットワーク上からの画像データをメモリユニット 69a 内の DRAM ブロック部 75 に保存するために、ネットワーク手段として SCSI (Small Computer System Interface) 及び SCSI コントローラ 90 を用いている。

【0053】当然のことながら、ネットワーク通信手段には、例えばイーサネットを物理手段として用い、データ通信に OSI (Open System Interface) 参照モデルの TCP/IP 通信を用いる等、種々の手段が考えられる。また、このような構成を用いることにより、前述のように、画像データの転送のみならず、ネットワーク上に存在する各機械の機内状態通知や後述するリモート出力コマンドのような制御コマンド、設定コマンドの転送も行っている。

【0054】なお、図 8 に示す 2 台のデジタル複写機の接続形態は、説明の便宜を図るためになされたものであり、本発明においては、図 7 に示すデジタル複写機のネットワークシステムに適用することができる。図 9 は図 8 に示すデジタル複写機 55a、55b のネットワークソフトウェア構成を示すブロック図である。

【0055】図 9 に示すように、デジタル複写機 55a、55b のネットワークソフトウェアは、デバイス制御層 92、システム制御層 93 及びアプリケーション層 94 の 3 層構造によって構成されている。デバイス制御層 92 は、入出力制御において、デジタル複写機 55a とデジタル複写機 55b の間でデータを論理/物理変換するレイア (デバイスドライバ) である。

【0056】SCSI コントローラ 90 は、デジタイズ方式に接続された周辺機器との間で、個別に設定された相手 SCSI コントローラ 90 の ID 番号を管理し、ID 番号を指定してデータ転送を制御するようになっており、小型コンピュータ・システム用インターフェイスとして広く使用されている。また、SCSI コントローラ 90 は、メモリユニット 69a を介して制御コマンドや画像データを通信する。

【0057】なお、ここでは、SCSI コントローラ 90 を用いて構成しているが、本発明においては、SCSI コントローラ 90 に替わって LAN コントローラを使用することもできる。LAN コントローラには、TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) ソフトウェア等が挙げられる。

【0058】システム制御層 93 は、デジタル複写機 55a、55b のシステムを構成する各部を制御するシステム制御部を構成するシステムコントローラ 66 と、操作部コントローラ 95 と、周辺機コントローラ 96 と、画像形成装置コントローラ 97 と、画像読み取り装置コントローラ 98 及びメモリユニット 69a によって構成されている。

【0059】システムコントローラ 66 は、複写モード時に画像書き込み部 68 で画像形成するための紙搬送処理や電子写真プロセス処理を制御するとともに、異常状態や記録紙の有無の検出を含む給紙カセット状態等の機内監視を行うとともに、画像読み取り部 67 で画像を読み取るためのスキャナ動作や光源の ON/OFF 等を制御する。

【0060】操作部コントローラ 95 は、LCD 表示や LED 点灯/消灯及びキー入力スキャン等の MMI (Man Machine Interface) や論理レベルで行うレイアである。周辺機コントローラ 96 は、自動両面ユニット、ソータ及び ADF 等の複写機に装着されている周辺機のコントロールを論理レベルで実行するレイアである。

【0061】画像形成装置コントローラ 97 は、画像データから電子写真、感熱記録及びインクジェット記録等の画像イメージを形成するように制御するレイアである。画像読み取り装置コントローラ 98 は、量子化、シェーディング補正、MTF 補正及び変倍処理等を制御するレイアである。メモリユニット 69a は、圧縮処理や DMA 転送の設定処理等を制御するレイアである。

13

【0062】アプリケーション層94は、コピーアプリ99及びデーモンプロセス100によって構成されている。コピーアプリ99は、コピーシーケンスに基づいて複写動作を実行するアプリケーションである。デーモンプロセス100は、ネットワークを介して他のデジタル複写機からプリント要求が依頼された場合に、メモリユニット69a内に保存されている画像データを読み出し、自機の画像書き込み部68に画像データを転送するアプリケーションである。

【0063】当然のことながら、デーモンプロセス100がメモリユニット69aから画像を読み出し、プリント動作を実行する前に、ネットワーク上の他の機械からの画像転送は、終了しておかなければならない。ここで、操作部57、周辺機、画像形成装置59、画像読み取り装置58、メモリユニット69aは、各々の複写機が保有するリソース（資源）として取り扱われる。デジタル複写機55aが自身の各リソースを使用して複写動作を実行する場合（プリントスタートキー押下時）には、システムコントローラ66に対して、画像形成装置59、画像読み取り装置58、あるいは必要に応じて、周辺機、メモリユニット69aの各リソースをシステム制御部を構成するシステムコントローラ66に要求する。

【0064】システムコントローラ66は、コピーアプリ99からの要求に対して、リソースの使用権の調停を行い、コピーアプリ99にその調停結果（使用可否）を通知する。デジタル複写機55aがスタンドアローンで使用される場合（ネットワーク接続されない場合）では、システムが保有するリソースは全てコピーアプリ99が占有できる状態であるため、即時に複写動作が実行される。

【0065】一方、本実施例のように、ネットワーク上に存在する別の機械（以下、遠隔デジタル複写機と記す）のリソースを使用してプリント動作を実行する遠隔デジタル複写機のシステムコントローラに対してリソースの使用権を要求する。遠隔デジタル複写機のシステムコントローラは、要求に従ってリソースの調停を行い、その結果を要求元の機械のアプリケーションに通知する。アプリケーションは、使用権が許可された場合は、画像の読み取りを実行し、自身のメモリユニット内への画像記憶が終了すると、外部インターフェース（本実施例ではSCSI）を介して、リモート出力先の機械のメモリユニットに画像転送を行う。

【0066】画像転送が終了すると、リモート出力先の機械のデーモンプロセスに対してプリント実行するための給紙口、排紙口、プリント枚数等の各条件を送信した後、プリント開始コマンドを送信する。リモート出力先のデーモンプロセスは、プリント開始コマンドを受信すると、自身（リモート出力を実行する機械）のシステムコントローラに対してプリント開始を要求し、リモート

14

ト出力がシステムコントローラによって実行される。

【0067】後述する図10、11に示すように、デジタル複写機55aによってデジタル複写機55bのメモリユニット69aが使用されている場合は、デジタル複写機55bのメモリユニット69aは、デジタル複写機55bあるいは、図7に示すような複数のデジタル複写機がネットワーク上に接続される場合は、デジタル複写機55a以外のデジタル複写機のアプリケーションの使用は、不可状態となる。

【0068】なお、図10、11に示すシステムコントローラ66→デーモンプロセス100へのF G A T Eアサートコマンドは、給紙実行された転写紙がレジストローラ位置に到達した時に発行されるコマンドで、転写紙の先端部とメモリユニット69a内からの出力画像の書き出し位置を同期させるために必要となる。次に、図10、11は本発明に係る一実施例のデジタル複写機55a、55bの動作フローを示す図である。

【0069】図10、11を参照して、デジタル複写機55aで読み取った画像データをメモリユニット69aに記憶し、ネットワークに接続されたデジタル複写機55bのメモリユニット69aの画像書き込み部68に画像データを転送し、画像書き込み部68から複写する動作（リモート出力）を説明する。なお、図10に示すメモリ使用要求は、デジタル複写機55aが自機のメモリユニット69aに記憶された画像データをデジタル複写機55bに転送して記憶させた後に複写させる旨を表すリモート出力要求と同様の制御コマンドである。

【0070】まず、デジタル複写機55aのコピーアプリ99は、自機のシステムコントローラ66に自機のメモリユニット69aの使用を要求するメモリ使用要求を発行する。例えば操作側（自機）のデジタル複写機55aと相手側のデジタル複写機55bで2部ずつ計4枚の画像を複写する場合、デジタル複写機55aからデジタル複写機55bに画像を送らないと、相手側のデジタル複写機55bが複写することができないので、自機のメモリユニット69aのリソース要求を行っている。次に、システムコントローラ66は、自機のメモリユニット69aが使用可能状態の場合には、使用許可をコピーアプリ99に返す。

【0071】次に、デジタル複写機55aのコピーアプリ99は、自機のシステムコントローラ66に外部メモリ使用要求を発行し、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90からSCSIネットワーク91を介してデジタル複写機55bのSCSIコントローラ90にメモリ使用要求を転送する。次いで、デジタル複写機55bのSCSIコントローラ90からシステムコントローラ66にメモリ使用要求①を転送する。このメモリ使用要求①を受けたデジタル複写機55bのシステムコントローラ66は、自機のメモリユニット69aが使用可能状態の場合には、自機のSCSIコントローラ90に

15

メモリユニット69aの使用を許可する使用許可②を発行する。次いで、デジタル複写機55bのSCSIコントローラ90は、この使用許可②をSCSIネットワーク91を介してデジタル複写機55aのSCSIコントローラ90に転送する。

【0072】次に、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90は、デジタル複写機55bのメモリユニット69aの使用許可を外部メモリ使用許可として自機のシステムコントローラ66に転送する。次いで、自機のシステムコントローラ66からコピーアプリ99にこの外部メモリ使用許可を転送する。なお、デジタル複写機55bのメモリユニット69aの使用許可を通信することで、ネットワークに接続された他のデジタル複写機55bは、デジタル複写機55a、55bのメモリユニット69aの使用を禁止する使用禁止状態③になり、リソース使用の競合が回避される。

【0073】また、デジタル複写機55bのメモリユニット69aが使用禁止状態になった場合に、デジタル複写機55bのコピーアプリ99からメモリ使用要求が発行された時には、システムコントローラ66から自機のメモリユニット69aが使用禁止状態になっているため、メモリユニット69aが使用できない旨を表すメモリ使用不可をコピーアプリ99に発行する。

【0074】次に、外部メモリ使用許可を受けたデジタル複写機55aのコピーアプリ99は、メモリユニット69aのDMAユニットにDRAMブロック75の書き込み先頭アドレス及び転送データ量を設定する。このようにして、自機のメモリユニット69aを画像データが転送できる待機状態に設定する。次に、コピーアプリ99は、自機のメモリユニット69aに画像データの読み取りを開始する画像読み取り開始を発行するとともに、画像読み取り部67に画像を読み取るためのスキャナ動作や光源をONして順次に画像を読み取らせる。このようにして、画像読み取り部67から出力された画像データは、デジタル複写機55aのメモリユニット69aに転送されて書き込まれる。

【0075】次に、画像読み取り部67から画像読み取り終了を受けたデジタル複写機55aのコピーアプリ99は、自機のメモリユニット69aに画像データの読み取り終了を発行する。この画像読み取り終了を受けたメモリユニット69aは、自機のコピーアプリ99に画像データの読み込み終了を発行する。次に、この読み込み終了を受けたコピーアプリ99は、自機のメモリユニット69aに記憶された画像データの転送を要求する画像転送要求を発行する。

【0076】次に、この画像転送要求を受けたデジタル複写機55aのSCSIコントローラ90は、デジタル複写機55aのメモリユニット69aに記録された画像データをSCSIネットワーク91を介してデジタル複写機55bのメモリユニット69aに書き込むように転

16

送を開始する。ここで、デジタル複写機55aのメモリユニット69aに記憶された画像データの転送が終了した場合には、デジタル複写機55bのSCSIコントローラ91に転送終了を発行する。次に、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90は、自機のコピーアプリ99に転送終了を発行する。

【0077】次に、この転送終了を受けたデジタル複写機55aのコピーアプリ99は、デジタル複写機55bにプリント動作を開始させるために、給紙口、排紙口、プリント枚数等を設定したパラメータをSCSIコントローラ90に発行する。次いで、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90からデジタル複写機55bのSCSIコントローラ90にこのパラメータを転送する。

【0078】次に、デジタル複写機55bのSCSIコントローラ90は、このパラメータを自機のデモンブプロセス100に設定する。デジタル複写機55bのデモンブプロセス100は、このパラメータから給紙口、排紙口、プリント枚数等の必要パラメータを取得した後に、自機のシステムコントローラ55bにこのパラメータを設定する。

【0079】次に、デジタル複写機55aのコピーアプリ99は、デジタル複写機55bにプリント動作を開始させるために、プリント開始コマンドをSCSIコントローラ90に発行する。次いで、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90からデジタル複写機55bのSCSIコントローラ90にこのプリント開始コマンドを転送する。

【0080】次に、デジタル複写機55bのSCSIコントローラ90は、このプリント開始コマンドを自機のデモンブプロセス100に設定する。デジタル複写機55bのデモンブプロセス100は、このプリント開始コマンドに基づいて自機のシステムコントローラ66にこのプリント開始コマンドを発行する。次に、このプリント開始コマンドを受けたデジタル複写機55bのシステムコントローラ66は、プリント開始コマンドに従ってプリント動作を開始するために、デモンブプロセス100から指示された給紙口から転写紙の給紙を開始する。次いで、システムコントローラ66は、給紙口から転写紙の給紙を開始した旨を表す給紙開始をデモンブプロセス100を経てSCSIコントローラ90に発行する。

【0081】次に、SCSIコントローラ90は、この給紙開始をデジタル複写機55aのSCSIコントローラ90に転送する。次いで、デジタル複写機55aのSCSIコントローラ90は、コピーアプリ99に受けた給紙開始を転送する。次に、デジタル複写機55bにおいて、給紙された転写紙は、画像形成開始位置（レジストローラ位置）に到達すると、デジタル複写機55bのデモンブプロセス100に対してFGATEアサート許可コマンドを発行する。このFGATEアサート許可コ

マンドを受けたデーモンプロセス 100 は、デジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 に対して画像書き込み部 68 への画像データ転送を要求し、SCS I コントローラ 90 は、画像書き込み部 68 へ画像データの転送を開始する。

【0082】更に、デジタル複写機 55 b のシステムコントローラ 66 は、転写紙が排紙されると、デジタル複写機 55 b のデーモンプロセス 100 に対して排紙実行を通知する。次いで、この排紙実行を受けたデーモンプロセス 100 は、SCS I コントローラ 90 に排紙実行を発行する。次いで、SCS I コントローラ 90 は、この排紙実行をデジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 に転送する。次いで、デジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 は、コピーアプリ 99 に受けた排紙実行を転送する。

【0083】この排紙実行を受けてデジタル複写機 55 a のコピーアプリ 99 は、自機の SCS I コントローラ 90 に外部メモリリソース解放を発行する。次いで、デジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 は、SCS I ネットワーク 91 を介してデジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 に外部メモリリソース解放を転送する。次いで、デジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 からシステムコントローラ 66 に外部メモリリソース解放を転送する。

【0084】また、図 10, 11 においては、デジタル複写機 55 a の画像読み取り部 67 で読み取った画像データをデジタル複写機 55 b の画像書き込み部 68 へ出力させるフローのみを説明している。しかしながら、デジタル複写機 55 a からデジタル複写機 55 b のメモリユニット 69 a へ画像データの転送が終了した後は、デジタル複写機 55 a とデジタル複写機 55 b は、全く独立に動作することができるため、デジタル複写機 55 b でプリント動作を開始している際に、デジタル複写機 55 a が自機のメモリユニット 69 a に記憶されている画像データを、自機の画像書き込み部 68 に転送してプリント動作をさせることもできる。

【0085】なお、図 10, 11 においては、単に、デジタル複写機 55 b でリモート出力を実行させる動作に最低限必要な情報を記述したが、実際に、遠隔地に存在するデジタル複写機の周辺機等を使用する場合には、メモリユニットの使用権のみをデジタル複写機に要求するとともに、周辺機リソースもあわせて使用要求する必要がある。

【0086】特に、ソータ機能を実行する排紙仕分け装置 61 を使用する場合に、使用権の調停が不十分であった時には、デジタル複写機 55 b の排紙口において、デジタル複写機 55 a からのリモート出力の出力紙とデジタル複写機 55 b の出力紙（転写紙）が混在する等の不具合が発生してしまう。次に、図 12 は本発明に係る一実施例の 2 台のデジタル複写機の調停処理の動作フロー

を示す図である。

【0087】なお、図 12 に示すメモリ使用要求は、デジタル複写機 55 a が自機のメモリユニット 69 a に記憶された画像データをデジタル複写機 55 b に転送して記憶させた後に複写させる旨を表すリモート出力要求と同様の制御コマンドである。まず、デジタル複写機 55 a のコピーアプリ 99 は、自機のシステムコントローラ 66 に自機のメモリユニット 69 a の使用を要求するメモリ使用要求を発行する。次に、システムコントローラ 66 は、自機のメモリユニット 69 a が使用可能状態の場合には、使用許可をコピーアプリ 99 に返す。

【0088】次に、デジタル複写機 55 a のコピーアプリ 99 は、自機のシステムコントローラ 66 に外部メモリ使用要求を発行し、次いで、システムコントローラ 66 から SCS I コントローラ 90 に外部メモリ使用要求を発行する。次いで、デジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 から SCS I ネットワーク 91 を介してデジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 にメモリ使用要求を転送する。次いで、デジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 からシステムコントローラ 66 にメモリ使用要求①を転送する。

【0089】このメモリ使用要求①を受けたデジタル複写機 55 b のシステムコントローラ 66 は、システムの使用状況に応じて調停処理を行い、自機の SCS I コントローラ 90 に調停結果②を発行する。次いで、デジタル複写機 55 b の SCS I コントローラ 90 は、この調停結果を SCS I ネットワーク 91 を介してデジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 に転送する。

【0090】次に、デジタル複写機 55 a の SCS I コントローラ 90 は、デジタル複写機 55 b のメモリユニット 69 a の調停結果を自機のシステムコントローラ 66 に転送する。次いで、自機のシステムコントローラ 66 からコピーアプリ 99 にこの調停結果を転送する。このように、デジタル複写機 55 b のシステムコントローラ 66 は、デジタル複写機 55 a からメモリ使用要求①を受信すると、図 12 に示すように、システムの使用状況に応じて調停処理を実行し、その調停処理の結果として調停結果②をデジタル複写機 55 a に返信するので、図 10, 11 に示すように、調停結果としてデジタル複写機 55 b のメモリユニット 69 a の使用許可が返信される場合がある。一方、調停結果として使用拒否が返信された場合には、デジタル複写機 55 a はリモート出力処理を中断するか、あるいは、デジタル複写機 55 a で保有するリソースのみを使用して複写処理を継続する。

【0091】図 10, 11 には、前述した通り、デジタル複写機 55 a で読み取った画像をデジタル複写機 55 b の画像形成装置に転送・プリント（リモート出力）実行する動作フローを示しているが、リモート出力が可能となるのは、デジタル複写機 55 a からデジタル複写機 55 b に対するメモリ使用要求（図 10, 11 の①の

マンド) に対してシステムコントローラから使用許可 (図 10, 11 の②のコマンド) が与えられる場合のみ有効となる。

【0092】すなわち、図 12 に示すように、デジタル複写機 55a のシステムコントローラ 66 は、デジタル複写機 55a からメモリ使用要求 (図 12 の②のコマンド) を受信すると、図 12 に示すように、システムの使用状況に応じて調停処理を実行し、その調停処理の結果 (図 12 の②のコマンド) をデジタル複写機 55b に返信する。

【0093】当然のことながら、図 10, 11 に示すように、調停の結果、デジタル複写機 55b のメモリユニット 69a の使用権要求が許可される場合もあれば、使用権要求が拒否される場合もある。使用権の要求が拒否された場合、デジタル複写機 55a は処理を中断するか、あるいは自身で保有するリソースのみを使用して処理を継続する。

【0094】次に、図 13, 14 は請求項 1, 2 の発明に係る一実施例の送信側及び受信側のデジタル複写機の予熱モード解除処理フローを示すフローチャートである。ここで、図 13 は送信側のデジタル複写機の予熱モード解除処理フローを示すフローチャートである。本実施例では、まず、予熱モードを解除する条件 (操作部が操作された人体検知センサが ON になった、コピー中等機械使用状態になった等) になったかどうかを判断し (ステップ S1)、この条件の何れか一つでも満たしていれば (ステップ S1)、ステップ S2 以降の予熱モード解除処理を行う。

【0095】自機のデジタル複写機が予熱状態かどうかを判断し (ステップ S2)、自機が予熱状態であれば (ステップ S2)、自機の予熱モード解除処理を行う (ステップ S3)。この自機のデジタル複写機の予熱モード解除処理は、具体的には、操作部表示の点灯、定着ヒータ温度目標値をコピー可能状態に戻す等の処理である。そして、ネットワーク内の他のデジタル複写機に、予熱解除を要求するコマンドの送信処理を行う (ステップ S4)。

【0096】一方、図 13 は図 12 のステップ S4 で受信側のデジタル複写機に送信された予熱解除要求に応じて受信側のデジタル複写機が予熱を解除する処理フローを示すフローチャートである。本実施例では、まず、ネットワーク内の他機のデジタル複写機が予熱モードの解除要求を受信すると (ステップ S11)、送信側の自機のデジタル複写機が予熱モードであるかどうかを判断し (ステップ S12)、自機のデジタル複写機が予熱状態であれば (ステップ S12)、受信側の他のデジタル複写機の予熱モードの解除処理を実行する (ステップ S13)。この他機のデジタル複写機の予熱モード解除処理では、定着ヒータ温度目標値をコピー可能状態に戻す等のコピー可能状態に復帰させるための処理のみを行い、

操作部表示の点灯は行わない。

【0097】このように、本実施例 (請求項 1) では、ネットワークシステム内の少なくとも 2 台以上のデジタル複写機に、消費電力をスタンバイ時よりも下げる予熱モード機能を有する時、予熱モード解除手段により自機のデジタル複写機の予熱モードの解除に応じて、自機のデジタル複写機に繋がれた他のデジタル複写機の予熱モードを解除するように構成している。

【0098】このため、ネットワークを介して自機のデジタル複写機に繋がれた他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、自機のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて他のデジタル複写機の予熱モードを解除することができる。従って、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時でも、他のデジタル複写機の所まで態態行って予熱状態を解除しないで自機のデジタル複写機側で解除することができるため、システム全体での操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができる。

【0099】本実施例 (請求項 2) では、ネットワークを介して自機のデジタル複写機に繋がれたその他のデジタル複写機の予熱モード解除に応じて予熱モードを解除した時、予熱モード解除に応じた操作部表示を行わないように構成している。このため、他のデジタル複写機への連動による予熱解除時に予熱解除に応じた操作部表示を行わないようにすることができる。従って、オペレータが操作していないデジタル複写機の操作部表示 (必要のない表示) を行わないで済ませることができるため、無駄な電力消費を抑えることができる。

【0100】次に、図 15 は請求項 3 の発明に係る一実施例の自動予熱モード移行処理フローを示すフローチャートである。なお、この自動予熱モード移行処理は、タイマ割り込み等を利用して一定時間経過毎に実行される。本実施例では、まず、始めに自機のデジタル複写機が予熱モードへ移行できる条件にあるかを判断する (ステップ S21)。この条件には、自機が操作されていないこと、自機の人体検知センサがオフ状態 (前に人がいない) なこと、ジャム中等の異常状態でないこと、コピー中等の機械使用状態でないこと等が挙げられる。

【0101】自機のデジタル複写機が予熱モードへ移行できる条件にあると判断した時 (ステップ S21) は、他機のデジタル複写機から使用中コマンドの受信があったかどうかを判断し (ステップ S22)、他機のデジタル複写機から使用中コマンドの受信がなければ (ステップ S22)、未使用状態の継続時間を計るためのタイマをインクリメントする (ステップ S23)。

【0102】一方、ステップ S21 で自機のデジタル複写機が使用中であると判断された場合 (ステップ S21) には、ネットワーク内の他のデジタル複写機に対して使用中であることを伝えるコマンドを送信する (ステ

ップ S 2 4)。これは、ステップ S 2 2 で他機のデジタル複写機から受信したかどうかを判断するコマンドと同じものである。よって、システム内の他のデジタル複写機も同様の処理を行うことにより、ステップ S 2 1 とステップ S 2 2 の判断でシステム全体での複写機使用状態が判ることになる。

【0103】ステップ S 2 4 実行の後及び、ステップ S 2 2 で他機のデジタル複写機が使用中と判断された場合には、タイマクリア処理を行い（ステップ S 2 5）、未使用状態継続時間計測タイマを 0 クリアする（ステップ S 2 5）。また、ステップ S 2 3 でインクリメントしたタイマが予め決められた値になったかどうか（未使用状態が一定時間継続したか）を判断し（ステップ S 2 6）、インクリメントしたタイマが予め決められた値になっていれば（ステップ S 2 6）、予熱モードへの移行処理を実行する（ステップ S 2 7）。

【0104】このように、本実施例（請求項 3）では、自機と他機のデジタル複写機が使用状態にないことが一定時間続いた時、予熱モードへ自動的に移行するように構成している。このため、他のデジタル複写機が使用中の場合には自動予熱モード移行機能を働かせないようにすることができるので、使用中のデジタル複写機が使おうとした他のデジタル複写機が予熱モードになってしまうことを防止することができる。従って、システム全体での機能及び操作性を効率良く向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を効率良く短縮することができる。

【0105】

【発明の効果】本発明によれば、ネットワークを介して他のデジタル複写機を利用してコピーを取る時、他のデジタル複写機の所に態態行くことなく、他のデジタル複写機の予熱状態を自機のデジタル複写機側で解除することができ、システム全体の操作性を向上させることができるとともに、コピー開始までの時間を短縮することができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】人体検知センサの構成を示す図である。

【図 2】電源システムの構成を示すブロック図である。

【図 3】画像形成装置管理システムの構成を示すブロック図である。

【図 4】本発明に係る一実施例のデジタル複写機のシステム構成を示す図である。

【図 5】本発明に係る一実施例のデジタル複写機の構成を示すブロック図である。

【図 6】本発明に係る一実施例のデジタル複写機の構成を示すブロック図である。

【図 7】本発明に係る一実施例のデジタル複写機のネットワークシステムの接続を示す図である。

【図 8】本発明に係る一実施例の 2 台のデジタル複写機をネットワークを介して接続した構成を示すブロック図

である。

【図 9】図 8 に示すデジタル複写機のネットワークソフトウェア構成を示すブロック図である。

【図 10】本発明に係る一実施例の 2 台のデジタル複写機の動作フローを示す図である。

【図 11】本発明に係る一実施例の 2 台のデジタル複写機の動作フローを示す図である。

【図 12】本発明に係る一実施例の 2 台のデジタル複写機の調停処理の動作フローを示す図である。

【図 13】本発明に係る一実施例の送信側のデジタル複写機の予熱モード解除処理フローを示すフローチャートである。

【図 14】本発明に係る一実施例の受信側のデジタル複写機の予熱モード解除処理フローを示すフローチャートである。

【図 15】本発明に係る一実施例の予熱モード移行判断処理フローを示すフローチャートである。

【符号の説明】

- | | |
|--|--------------|
| 1 | 人体検知センサ |
| 2 | 本体制御板 |
| 3 | 電源ユニット |
| 4 | リレードライバ |
| 5 a, 5 b | ソリッドステートリレー |
| 6 | 管理装置 |
| 7 | デジタル複写機 |
| 8 | 公衆回線網 |
| 9 | 通信コントロール装置 |
| 10 | 電話機 |
| 11 | ファクシミリ |
| 55, 55 a, 55 b, 55 c, 55 d, 55 e, 55 f, 55 g, 55 h | デジタル複写機 |
| 56 | 原稿仕送り装置 |
| 57 | 操作部 |
| 58 | 画像読み取り装置 |
| 59 | 画像形成装置 |
| 60 | 両面ユニット |
| 61 | 排紙仕分け装置 |
| 62 | 給紙カセット |
| 63 | 拡張機能 |
| 64 | 利用者制限機器 |
| 66 | システムコントローラ |
| 67 | 画像読み取り部 |
| 68 | 画像書き込み部 |
| 69, 69 a | メモリユニット |
| 70 | C S S |
| 71 | 時計部 |
| 72 | 利用者制限機器 |
| 73 | 人体検知センサ |
| 75 | D R A M ブロック |
| 76 | 圧縮ブロック |

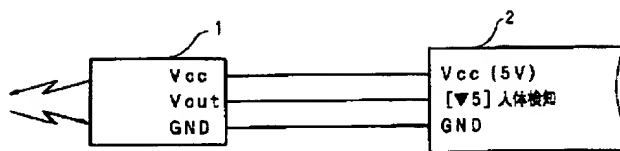
23

77 CPU
 79 システムコントローラ
 80 画像読み取り部
 81 画像書き込み部
 82 メモリユニット
 83 CSS
 84 時計部
 85 利用者制限機器
 86 人体検知センサ
 87 a, 87 b, 87 c CPU
 89 DMAブロック

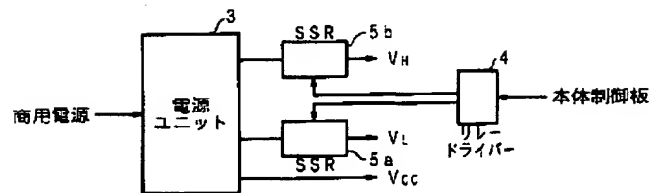
24

90 SCSIコントローラ
 91 SCSIネットワーク
 92 デバイス制御層
 93 システム制御層
 94 アプリケーション層
 95 操作部コントローラ
 96 周辺機コントローラ
 97 画像形成装置コントローラ
 98 画像読み取り装置コントローラ
 10 99 コピーアプリ
 100 デモンプロセス

【図1】

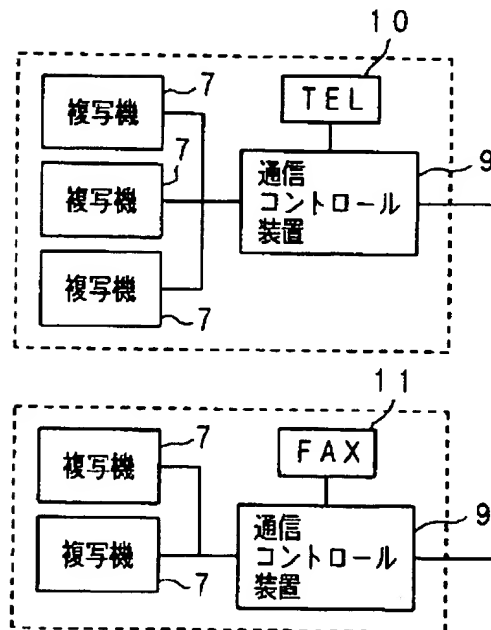


【図2】



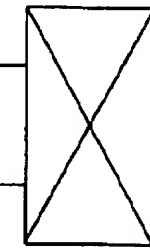
【図3】

※ユーザ側



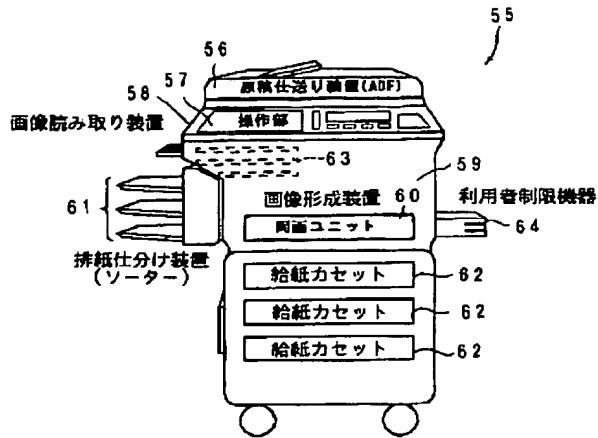
公衆回線網

※サービス拠点側

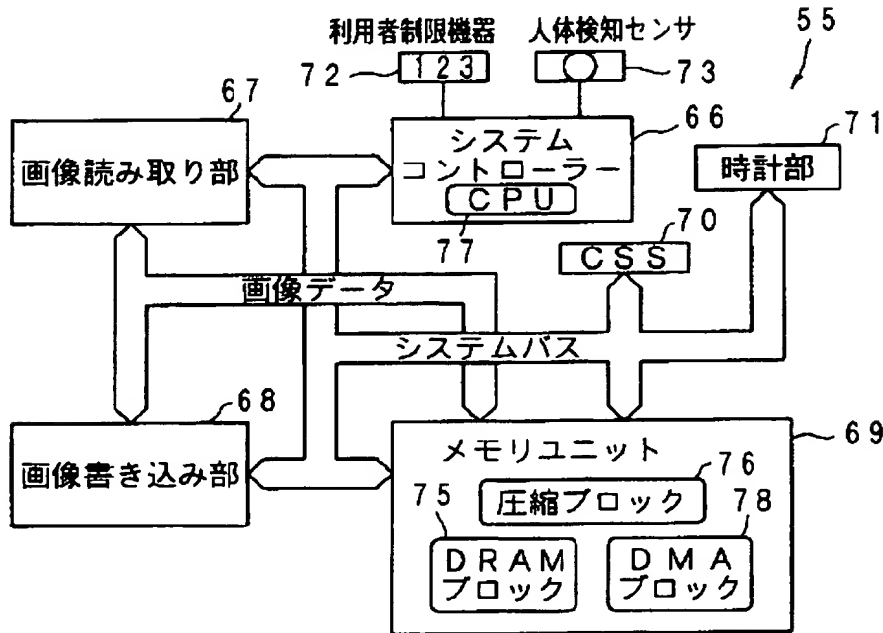


管理装置

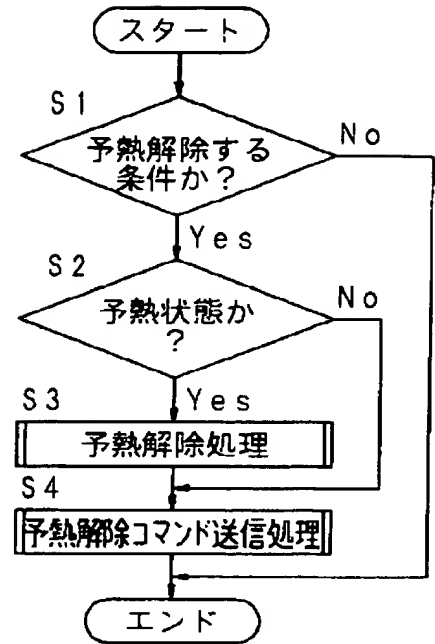
【図4】



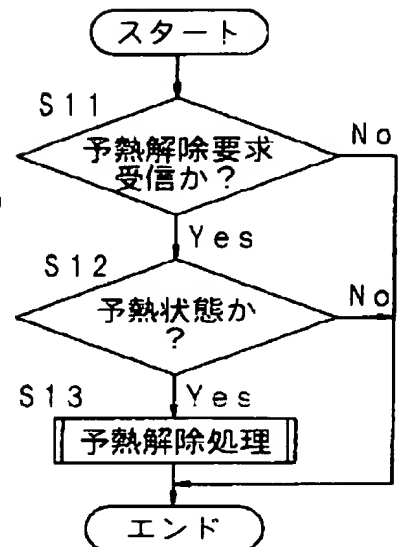
【図5】



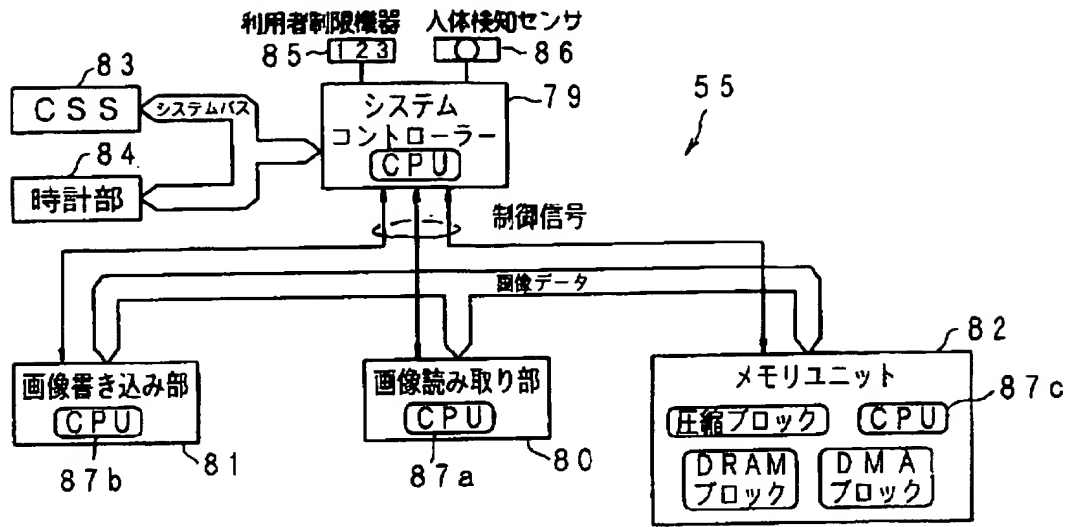
【図13】



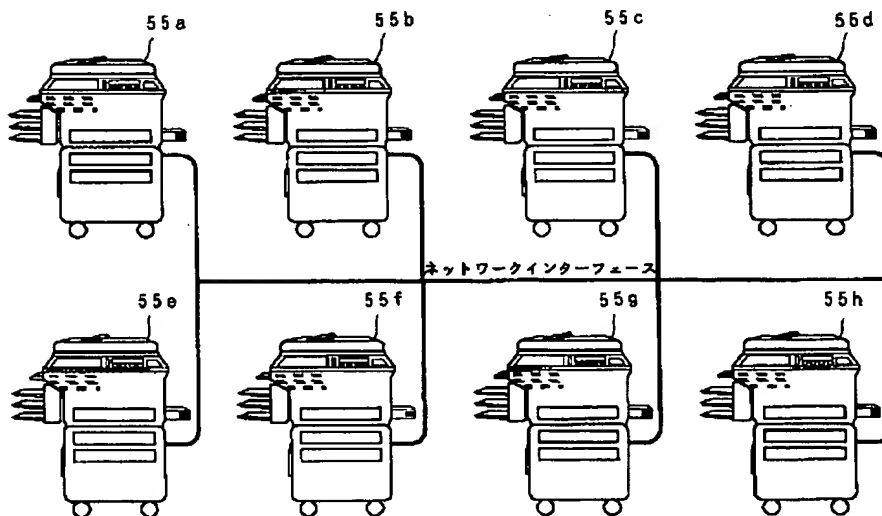
【図14】



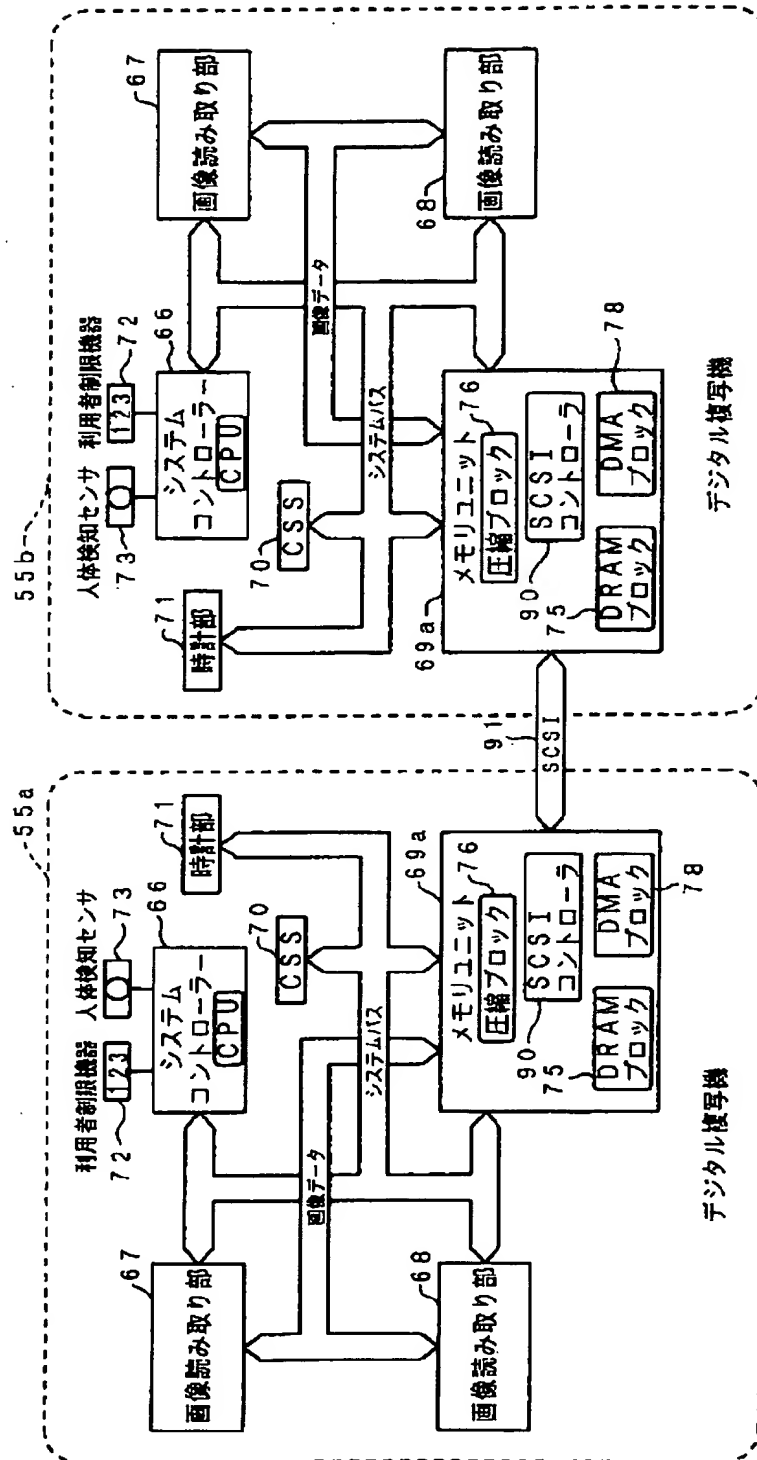
【図 6】



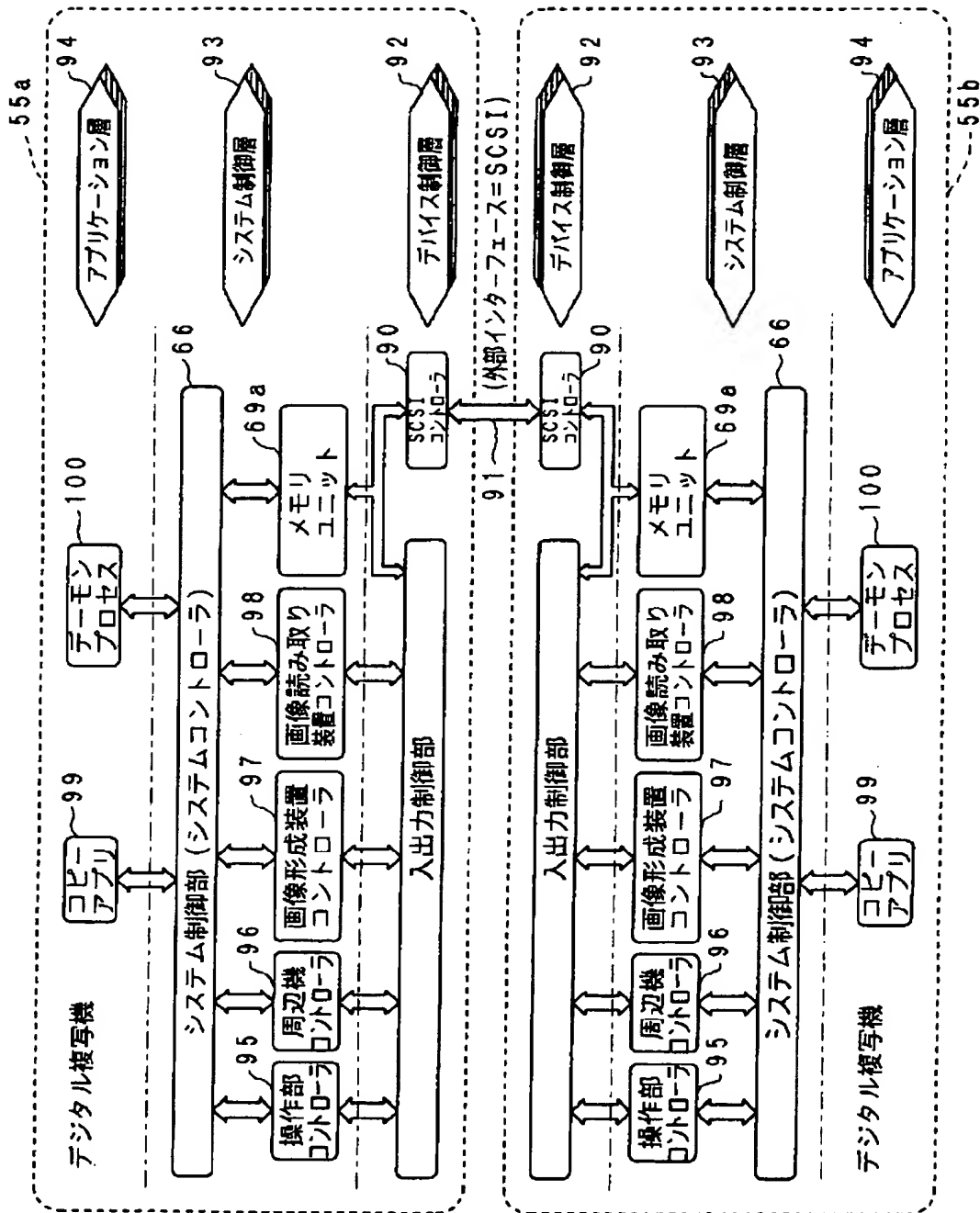
【図 7】



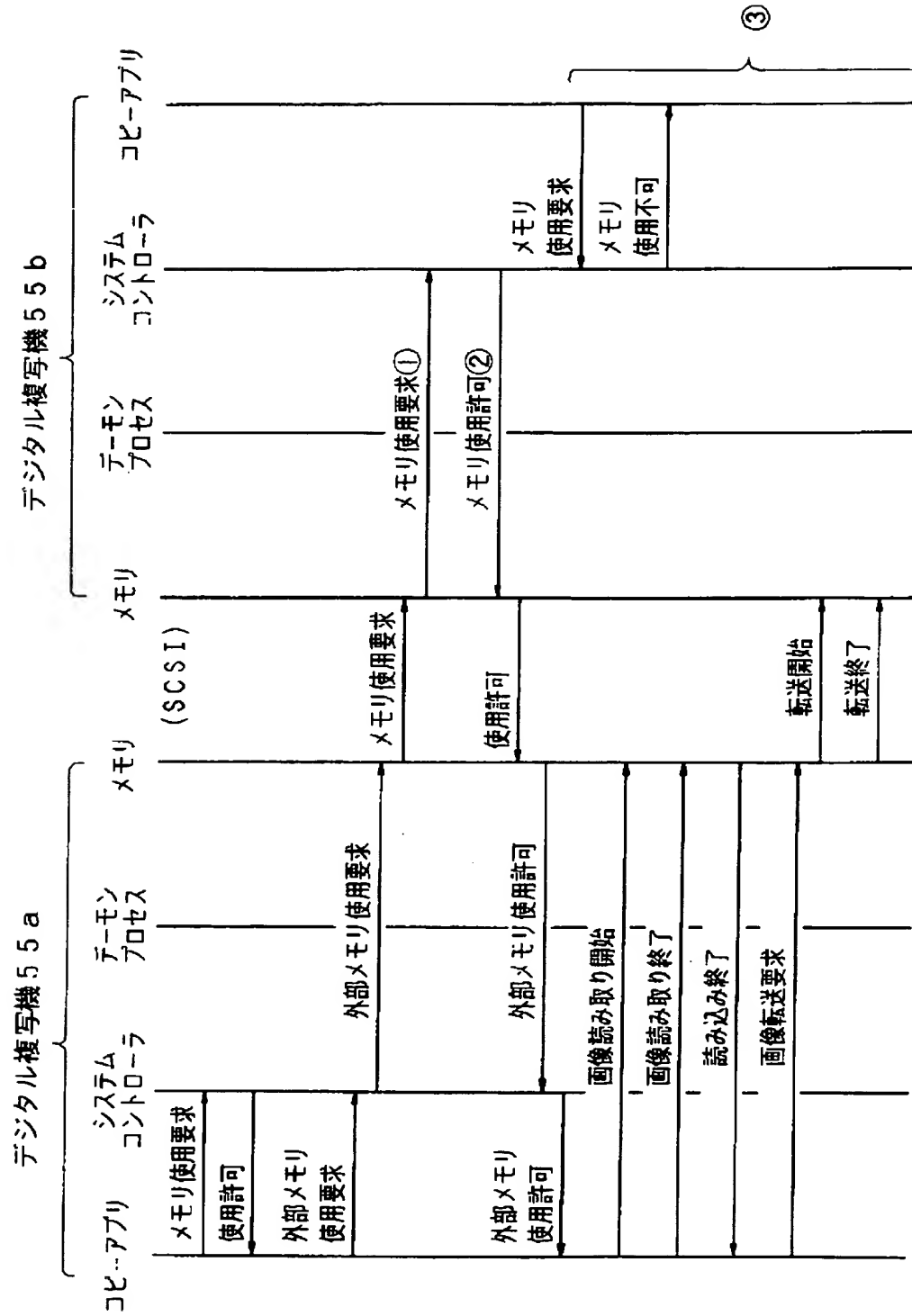
【図8】



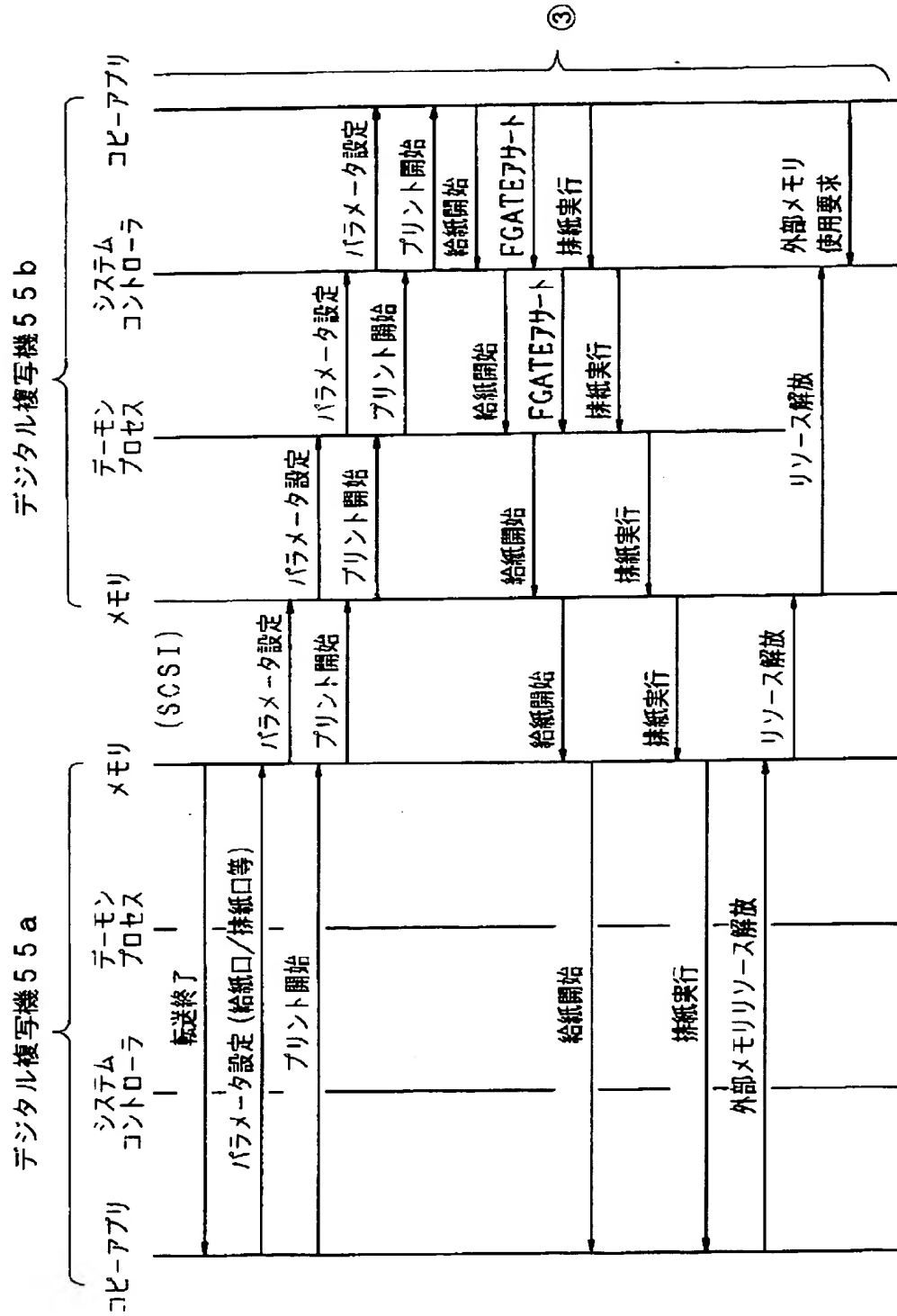
【図9】



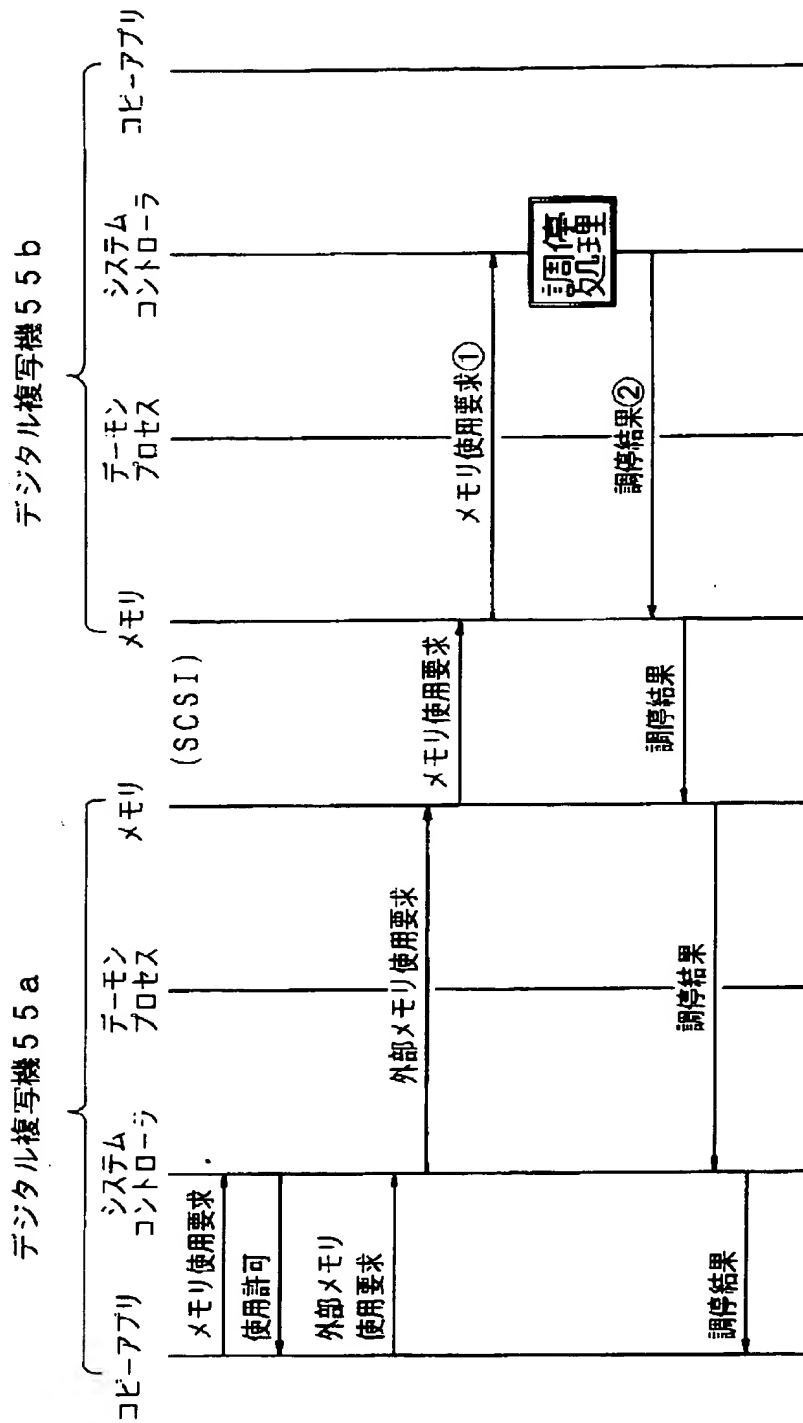
【図10】



【図11】



【図12】



【図15】

